



規定審議会(COL)で見たRIが会員増強にかける熱意の本気度

1. 私は去る4月のCOLに第2690地区代表議員として参加した。その中で最も議論白熱した案件はバリー・ラシンRI会長自らが提案者となった制定案19-72(ローターアクトクラブにRI加盟を認める件)であったと思う。彼が我々に必死に説明し、賛成するよう懇願した時の姿は忘れられない。結局、最初は否決、しかし翌日、動議を出し、また熱心な討議後の再採決は賛成多数で採択され、RACは正式にRIの仲間になった。議論の中で反対意見の中心は日本選出議員であった事に注目したい。私はこれを見てRIは何が何でも会員増強を最優先に考えているなど感じた。
2. 6月末日本全国でクラブ合併が3件あった、つまり6クラブが3クラブに減ったという事。更に終結クラブは7あったことから、自動的に合計10クラブ(衛星クラブも含めるならば12クラブ)減少したことになる。また、気になるのは終結したクラブ名の中の3つは多分創立50年以上と推定できる由緒あるクラブも存在していた。これは何を意味するか、その原因や実態を深く検証してみる必要がある。
3. 自クラブに応じた長期的ビジョンを持ち、地道な戦略計画を確立し、会員全員があらゆる情報を共有し、各自が新会員最低一名を確保する意気込みこそ大切で、クラブ会長や増強委員のみに任せるのは絶対禁忌である。
4. 今後、会員増強or会員基盤強化は日本の伝統的価値観の基に従来型の会員募集をするのか、欧米型の中核的価値観重視、その上柔軟性を前面に出した会員募集をするのか、私はそれをあまり問題視しない。それより両者をミックスしたものか、又は両面作戦の同時実施こそが会員基盤強化への道ではないかと思う。
5. 現在のRI最大目標は会員増加であり、我々日本のロータリーは会員数の目標を105,000人と設定し、現在の2.5から今迄通りの3ゾーンに復帰・確保することだ。今後もRIの最大関心事である会員基盤強化に向け我々も声高く叫ぼうではありませんか。

第3地域ロータリーコーディネーター補佐 伊藤 文利

つながる力、つなげる力

2019年7月から第3地域ロータリー公共イメージコーディネーター補佐をつとめることになりましたRID2660の片山勉です。今回の原稿を書いている時期はこの任についてやっと1ヶ月が経過したところであり、まさによちよち歩きの状態ではありますが、しっかり足を地につけて、地区やクラブの皆様の活動に役立つ情報を発信すべく、活動を開始しておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

さる7月13日(土)に「第3地域戦略計画セミナー」が大阪で開催され、11地区のガバナーが出席され、本田博己PDGの基調講演「会員基盤向上はビジョン・戦略計画づくりから」の他、三木RI理事/北TRF管理委員/辰野RI理事エレクト/EPNC/RC/RPIC/RRFC/EMGAからの発表、そして全ガバナーがそれぞれ個性的な決意表明で終了しました。

公共イメージ向上の最初の言葉は「ロータリーを知らない人が多い」から始まります。

ロータリーは他の奉仕団体と比べ、質の高い奉仕活動を継続しているにも拘わらず、認知度が低いのは日本の伝統的価値観である「隠匿の美学」によるところもあるように思います。

現在はデジタル技術の進化により、多様な情報発信手段があり、マスメディアやテレビだけではありません。

RIのリソースは「My ROTARY」から発信されており、その登録率を高くすること、そして多くのロータリアンが「My ROTARY」から有効な情報を引き出し、またクラブの現況と奉仕活動を入力することが重要な課題となります。

そして、地区やクラブが大きな刺激を受けるのは、RIや他地区とクラブの現況・事例を知ることであり、違いや変化を相互に意識します。

ガバナーだけではなく地区やクラブの公共イメージ向上(広報)委員会に効果的な情報を提供し、コミュニケーションを深め、地区・クラブが「つながる力・つなげる力」を発揮できるように努力したいと思っています。

第3地域ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 片山 勉